

自分と向き合い感性を高めながら作品をしたための書道。胆振東部地震がきっかけで小学校の教員から書道家に転身しました。町民のたくましさを感じ、書道を通じた人づくりで町への恩返しに情熱を注ぐ伊藤さんの教室を訪ね、話を聞きました。



町内で書道教室景風を主宰する書道家
Vol.23 ^{いとう}伊藤 ^{ちえこ}千映子さん(42歳)

心に寄り添う指導で 厚真町に恩返し

向き合った丁寧な指導が評判を呼んでいます。「人との出会いを大切に、技術やその人の良さを伸ばしてあげられるように心がけています」。

「厚真町に来ると、とにかく落ち着きます。自然がいっぱいで創意工夫できる素敵な田舎。私の原点であり移住者が来る町として、誇りを感じています」と伊藤さん。実家の農業をたまに手伝いながら、作品づくりに励むこともあるそうです。先細りしないように書道という文化を厚真の地に根付かせることに使命感を抱いています。

「先生、今日はありがとうございました。小学生の男児が、名残惜しそうに筆を片付けました。伊藤さんは、迎えに来た母親に歩み寄り、この日の成果と次回の課題を伝えて笑顔で見送りました。親子との絆が垣間見えました。

「その人の自信につながるように、心に寄り添った書道家でありたいと思っています」

書道家名は「嶺野景風」で、家は豊沢地区。大学を卒業して、札幌市内で小学校の教員を務めました。幼少から大学生まで習った書道が心に刻まれ、漠然と「いつか書道家になれたらいいな」と思いを描いていました。一大決心したのは胆振東部地震がきっかけ。被災した実家に帰省した際、震災に立ち向かう町民のたくましさを感じ、16年続けた小学校の教員生活に終止符を打ちました。

「今、私があるのは、厚真町のお陰。お世話になった大勢の人に恩返ししたい」と郷里に思いを馳せました。平成31年1月、国内外で活躍する札幌市の書道家の門をたたく弟子になり、指導位の錬師を取得。令和元年7月、厚真町総合福祉センターで書道教室を開設し、毎月3回、札幌市内の自宅から通っています。生徒は、小学生から60代まで幅広く、生徒一人ひとりに

あなたにとっての
愛すべき厚真を投稿してください



フェイスブック
@atsumatownhokkaido



インスタグラム
atsumalovers

ハッシュタグ#atsumaloversをつけてフェイスブックまたはインスタグラムに投稿してください。

ATSUMA LOVERS